



神戸 新開地本通りの商店街 昭和25年(1950)6月

カラー写真が伝える
復興・発展のきざし
— 占領下の日本 —

平成29年

9.16_土 ~ 12.17_日



会場：昭和館2階ひろば
開館時間：10:00～17:30(入館は17:00まで)
休館日：毎週月曜日(祝休日の場合は翌日)

<https://twitter.com/showakankudan> <https://www.facebook.com/showakankudan/>

<http://www.showakan.go.jp>

入場
無料

カラー写真が伝える 復興・発展のきざし

— 占領下の日本 —



1



2



3



4



5

1. 金物屋での記念撮影 昭和24年(1949)9月(群馬県高崎市) 2. 中野の商店街 昭和24年(1949)1月(東京都中野区) 3. 写生をする子どもたち 昭和25年(1950)6月(兵庫県神戸市) 4. ホテル・テイト(帝都) 昭和25年(1950)(東京都千代田区丸の内) 5. 堀川での友禅流し 昭和25年(1950)6月(京都府)

日本が戦後の復興を進めていた昭和23年(1948)7月にジェラルド・ワーナー(Gerald Warner)は来日しました。彼はGHQ外交局の幹部将校で、25年5月まで東京で勤務し、その後1年余り日本に滞在し、妻リラ(Rella Warner)とともに各地を巡り、街や人びとの様子をカメラに収めました。その写真は現在ラファイエット大学スキルマン図書館が所蔵し、日本国内のものだけで560点を超え、昭和館はその内の約290点を複製し収蔵しています。

終戦から40年後、『毎日グラフ別冊 ニッポン40年前』(毎日新聞社)の特集で、戦後の日本を撮影した一人としてワーナー氏を紹介し、「戦後の日本のめざましい復興ぶり、そしてわずか一時代でかつての友好国や敵と経済上のライバルとして肩を並べるまでになったことには驚いている。日本の復興・発展ぶりは、われわれ(日米)の相違のギャップを埋めるための平和的解決をみつけだすことの大切さを改めて強調するものだ」という寄せられたメッセージを載せています。滞在中、彼は戦後日本のめざましい復興と発展のきざしを感じながらカメラを手にしていただいでしょう。その写真には、終戦後の焼け跡や、廃墟の中での生活から抜け出し、活気ある日常生活を取り戻しつつある人びとの姿が写し出されています。

今回は、これらの写真の中から42点を厳選して紹介します。



〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1 TEL.03-3222-2577 FAX.03-3222-2575
ホームページ <http://www.showakan.go.jp>

- 交通のご案内 **電車ご利用の場合** 地下鉄九段下駅から徒歩1分(東西線・半蔵門線・都営新宿線 4出口) JR飯田橋駅から徒歩約10分
- 車をご利用の場合** 首都高速西神田ランプから約1分(九段下交差点) 普通乗用車専用駐車場がご利用になれます。
- 有料駐車場(30分200円)